

なお、ファイナンシャル・プランナーが「ライフプラン」、「ライフプランニング」という用語を使う場合には、主として「経済（資金）」的な面での生涯生活設計という意味で使用されることが多いようです。

### (3) ライフプランとリタイアメントプラン

リタイアメントプランとは、一般的には定年退職後、あるいは事業を引退した後の、人生の後半期におけるライフプランのことです。リタイアメントプランは、ライフプランの一部、後半部分であり、ライフプランとあわせて考えるものです。

また、リタイアメントプランについては、「退職前後のプラン」、「退職後から相続までのウェルエイジング（良き加齢）プラン」、「終末期のプラン」に分けて考えることもあります。

## 2. ライフプランとファイナンシャル・プランニング

### (1) 広義のライフプランと狭義のライフプラン

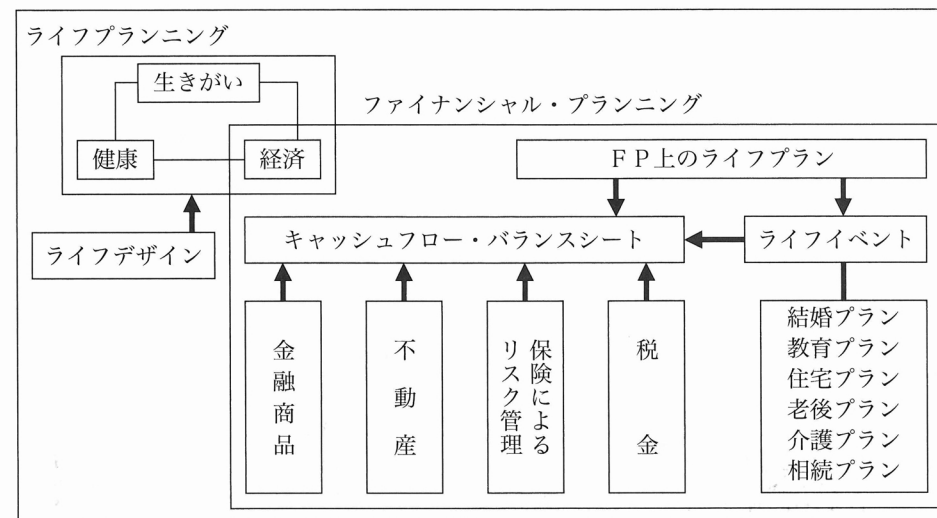
広義のライフプランとは、「生きがい」、「健康」、「経済」の3領域にまたがる、「暮らし方」としてのライフプランです。これに対し狭義のライフプランとは、広義のライフプランの中の、特に「経済」プラン、ファイナンシャルプランの中で使われる概念で、広義のライフプランを数値化したものです。

### (2) 狭義のライフプラン、FPの領域のライフプランニング

ファイナンシャル・プランナーの領域のライフプランニングは、広義のライフプランを実現するために、住宅資金、教育資金、老後資金など、さまざまなライフイベント（将来の予定）を考慮して資金計画を立て、これを全体として管理していくことが中心となります。

管理の手法としては、顧客とその家族の将来の予定を示すライフイベント表（後述）を作成し、ライフイベント表にもとづいたキャッシュフロー表（後述）を作成します。キャッシュフロー表では分析できない顧客の資産状況についてはバランスシート（後述）を作成して分析します。これらの分析は定期的に行い、必要に応じて見直しを行います。

### 参考 ライフプランとFP



(NPO法人 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会における分類)  
日本FP協会「FP総論（第9版）」より

## 3. 目標の明確化・数値化

ライフプランを作成することで、目標が明確になってきます。ここでいう目標とは、ファイナンシャルプラン上の目標額、ファイナンシャル・ゴールです。

たとえば5年後に住宅を取得したいという希望があれば、一戸建てかマンションか、場所はどこがいいのか、などの具体的な検討項目が明確になってきます。同時に、どのくらいの費用がかかるのかも明確になり、「いつまでにいくら準備しなければならない」という目標数値が明確になります。

「いつ、何のために、いくら必要なのか」という目標が明確でなければ、プランを立てることはできません。ファイナンシャル・プランニングの第一歩として、目標数値、ファイナンシャル・ゴールを明確にすることが必要です。